

# ファンドのMIRAI

## レポートの概要

### 資産クラス 四半期ごと騰落率

- 日本株式、外国債券といった資産クラスの四半期ごとの騰落率の比較です

### 資産クラス 期間騰落率

- 日本株式、外国債券といった資産クラスの期間騰落率の比較です

### 比較母集団に含まれるバランス型ファンド（8本）

- レポートで分析しているファンドを紹介します

### バランス型ファンドの運用は効率的か

- リスク・リターン平面を使って効率性を確認します

### リスクの測定

- 月間騰落率を使ってファンドのリスクを測定します

### 積立投資の結果（トータル・リターン）

- 積立投資を行ったときの結果を比較します

### NISA・手数料の効果

- NISA・手数料の影響を測定します

### 今月のピックアップファンド

- 個別ファンドを取り上げて分析します

### 個別ファンドのレポート×8本

- 個別ファンドのレポートです

# ファンドのMIRAI

2017年8月号

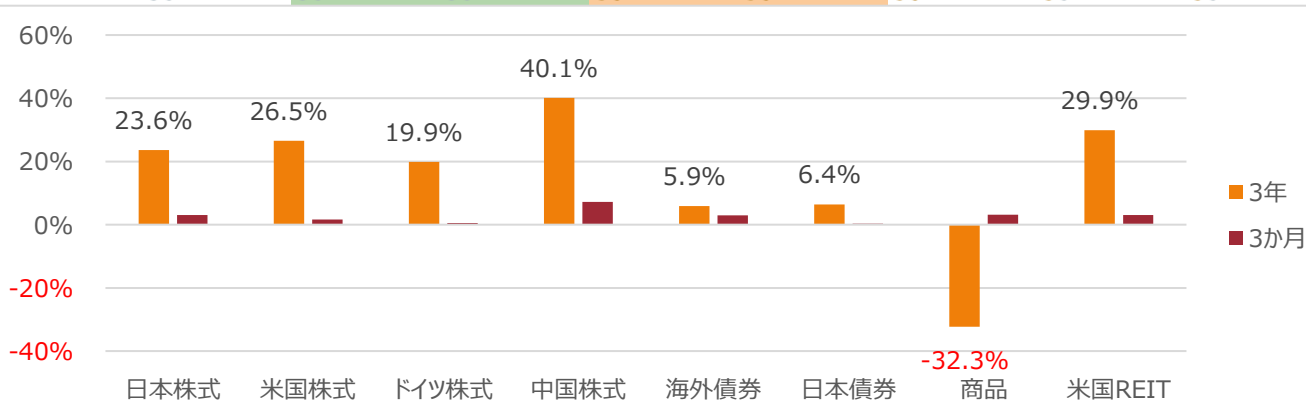
## 資産クラス 四半期ごと騰落率【2012年9月-2017年8月】

四半期	日本株式	米国株式	ドイツ株式	中国株式	海外債券	日本債券	商品	米国REIT
2016-Q4	13.8% ★ 4	17.5% ★ 2	16.5% ★ 3	13.1% ★ 5	7.3% ★ 7	-1.5% ★ 8	18.0% ★ 1	11.1% ★ 6
2017-Q1	-0.4% ★ 5	0.5% ★ 2	3.5% ★ 1	0.5% ★ 3	-3.7% ★ 7	-0.4% ★ 4	-6.9% ★ 8	-2.4% ★ 6
2017-Q2	6.4% ★ 2	3.4% ★ 4	7.9% ★ 1	1.4% ★ 6	4.7% ★ 3	0.0% ★ 7	-2.6% ★ 8	3.2% ★ 5
2017-Q3	0.3% ★ 5	-0.2% ★ 7	-0.2% ★ 6	5.7% ★ 1	1.0% ★ 3	0.5% ★ 4	1.8% ★ 2	-0.3% ★ 8



## 資産クラス 期間騰落率【2012年9月-2017年8月】

期間	日本株式	米国株式	ドイツ株式	中国株式	海外債券	日本債券	商品	米国REIT
3年	23.6% ★ 4	26.5% ★ 3	19.9% ★ 5	40.1% ★ 1	5.9% ★ 7	6.4% ★ 6	-32.3% ★ 8	29.9% ★ 2
1年	19.6% ★ 2	19.1% ★ 3	25.6% ★ 1	16.6% ★ 4	7.3% ★ 7	-1.2% ★ 8	11.6% ★ 5	8.1% ★ 6
6か月	5.2% ★ 4	2.3% ★ 5	11.5% ★ 1	5.3% ★ 3	5.4% ★ 2	0.4% ★ 7	-4.5% ★ 8	0.5% ★ 6
3か月	3.1% ★ 3	1.7% ★ 6	0.5% ★ 7	7.2% ★ 1	2.9% ★ 5	0.3% ★ 8	3.1% ★ 2	3.1% ★ 4
1か月	-0.1% ★ 6	-0.2% ★ 7	-0.4% ★ 8	4.4% ★ 1	0.8% ★ 2	0.5% ★ 3	0.2% ★ 5	0.4% ★ 4



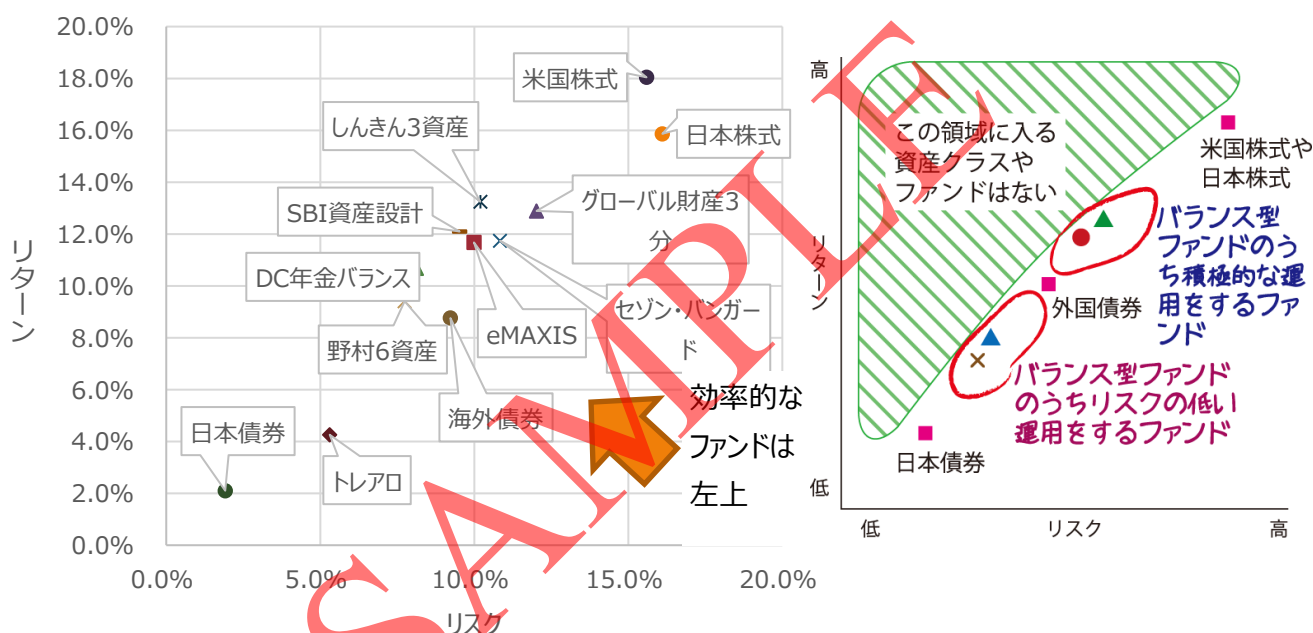
# ファンドのMIRAI

## 比較母集団に含まれるバランス型ファンド（8本）

表記	正式名称	表記	正式名称
eMAXIS	eMAXIS バランス（8資産均等型）	野村6資産	野村世界6資産分散投信(分配コース)
セゾン・バンガード	セゾン・バンガード・グローバルバランスファンド	SBI資産設計	SBI資産設計オープン（資産成長型）
DC年金バランス	三井住友・DC年金バランス50（標準型）	トリアロ	トレンド・アロケーション・オープン
グローバル財産3分	グローバル財産3分法ファンド（毎月決算型）	しんきん3資産	しんきん3資産ファンド（毎月決算型）

このレポートに掲載されているファンドは、①運用成績が悪くないこと②運用実績が5年以上あること③資産運用残高が大きいこと④ウェブサイト過去の基準価額等が十分に公開されていること⑤できるだけ多くの販売会社を取り扱っていること⑥バランス型ファンドであることという条件を基準に選択されています。比較募集団のファンドは、今後、入れ替えられる可能性があります。

## バランス型ファンドの運用は効率的か【2012年9月-2017年8月】



バランス型ファンドと代表的な資産クラス（日本株式、米国株式、外国債券、日本債券）をリスク（横軸）とリターン（縦軸）で表すと図のようになります。合理的な投資家は、リスクが低くて、リターンが高い資産を好みます。つまり、図のより左上の位置にあるファンドが合理的な投資家に選ばれる、効率的な運用をしているファンドということになります。しかし、「リスクが低くてリターンが高い」という投資家にとって都合がよいファンドは存在しませんから、ファンドは右上がりのラインに沿って並ぶことになります。このラインのことを、「効率的フロンティア」といいます。

### シャープレシオ

リスクとリターンの2つの属性を一つにまとめた指標がシャープレシオです。シャープレシオは、次の式で計算されます。

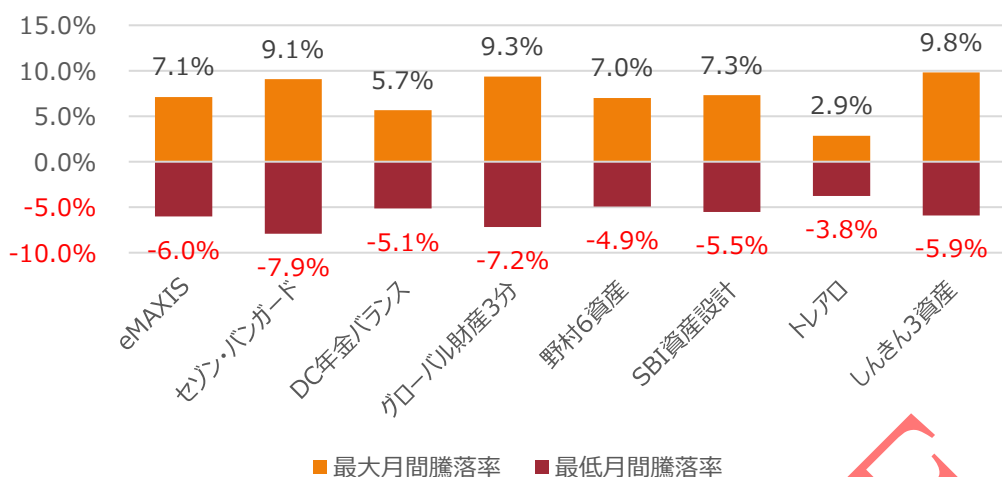
$$\text{シャープレシオ} = \frac{(\text{ファンドのリターン} - \text{普通預金の金利})}{\text{ファンドのリスク}}$$

	eMAXIS	セゾン・バンガード	DC年金バランス	グローバル財産3分	野村6資産	SBI資産設計	トリアロ	しんきん3資産
シャープレシオ	1.07	0.99	1.19	0.99	1.09	1.17	0.61	1.20
順位	5	6	2	7	4	3	8	1

シャープレシオは、数値が大きいほど投資効率がよい（リスクが小さくリターンが大きい）ことを表しています。

## リスクの測定【2012年9月-2017年8月】

過去5年間の最高・最低月間騰落率

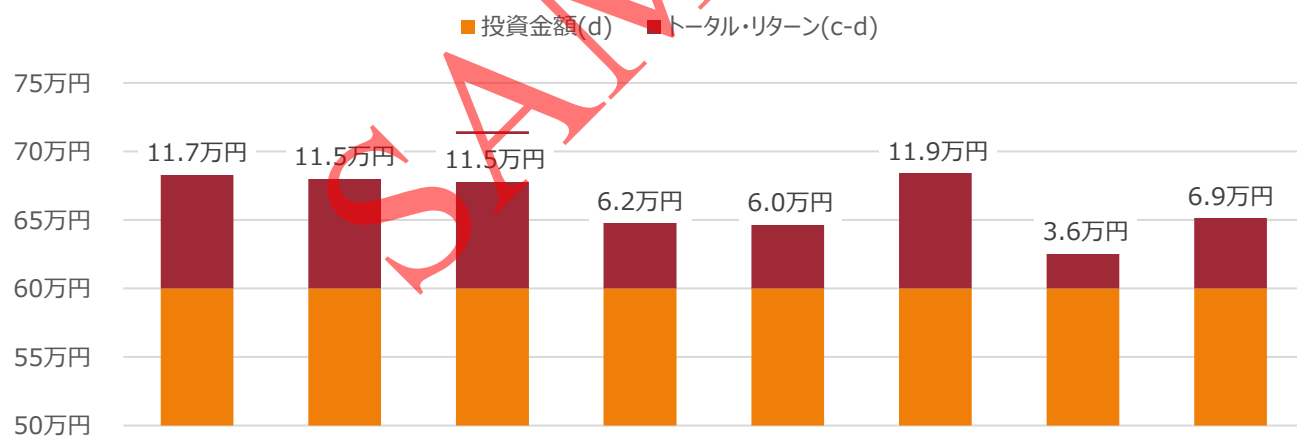


直近5年間【2012年9月-2017年8月】の月ごとの騰落率（リターン）の最高値と最低値を比較したものです。最高値と最低値の幅が広いとリスクが高い（騰落率のブレが大きい）、小さいとリスクが低い（騰落率のブレが小さい）ことがわかります。トレンド・アロケーション・オープン・オープン・オープンのリスクが小さいことが確認できます。

リスクは、騰落率（リターン）の変動の大きさ（標準偏差）で表されることが一般的ですが、一定の期間を採って、その期間内の最高の騰落率と最低の騰落率を同時に示すことでリスクのイメージをつかむことができます。

## 積立投資の結果（トータル・リターン）【2012年9月-2017年8月】

トータル・リターンは、ファンドの値上がりまたは値下がりによる増減分（キャピタルゲイン）と収益分配金による増加分（インカムゲイン）を合算した、ファンドのトータルの増減分です。ここでは、直近5年間、毎月1万円ずつ投資をしていたとしてトータルリターンがいくらになったのかを試算しています。



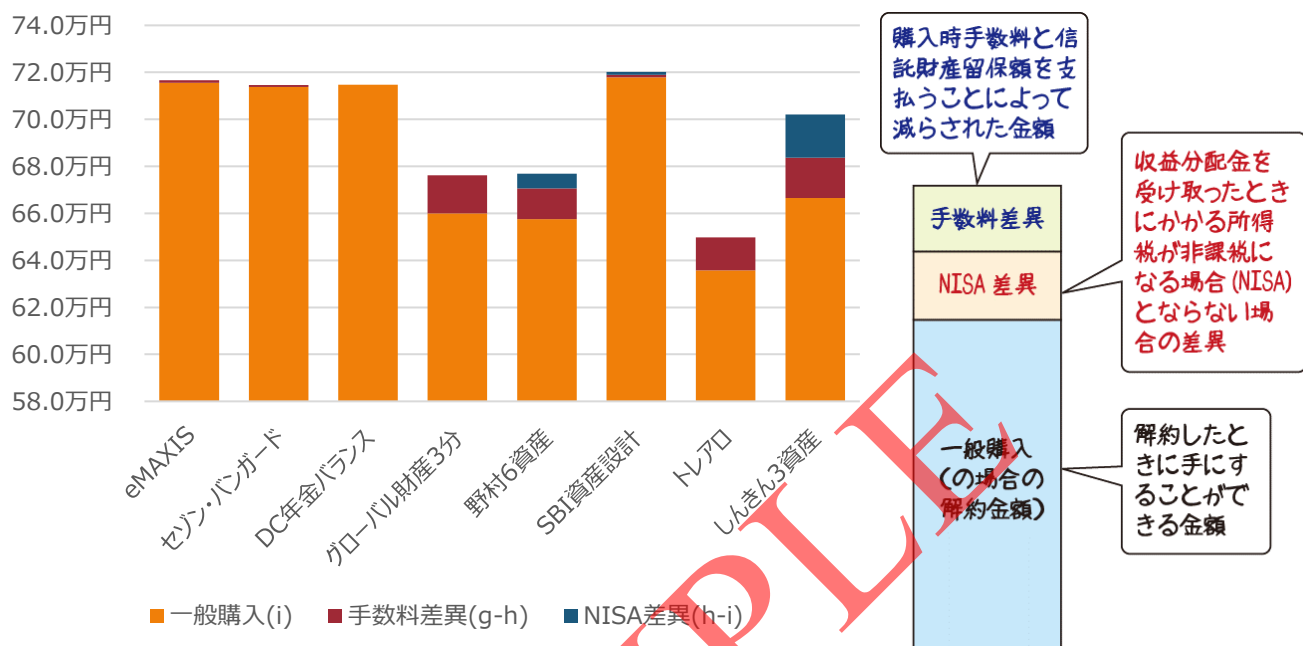
項目	eMAXIS	セゾン・バンガード	DC年金バランス	グローバル財産3分	野村6資産	SBI資産設計	トレアロ	しんきん3資産
基準価額(a)	18,925	13,885	15,001	8,168	10,043	14,344	12,186	8,100
保有口数(b)	378,677	514,629	476,445	810,045	656,745	501,197	521,739	825,317
評価金額(c)	71.7万円	71.5万円	71.5万円	66.2万円	66.0万円	71.9万円	63.6万円	66.9万円
投資金額(d)	60.0万円	60.0万円	60.0万円	60.0万円	60.0万円	60.0万円	60.0万円	60.0万円
トータル・リターン(c-d)	11.7万円	11.5万円	11.5万円	6.2万円	6.0万円	11.9万円	3.6万円	6.9万円
購入時手数料	0.00%	0.00%	0.00%	2.16%	1.62%	0.00%	2.16%	2.16%

購入時手数料は、各ファンドを購入できる金融機関から代表的な金融機関を選んで採用しています。購入時手数料は、金融機関によって異なることがありますし、同一の金融機関でも購入経路により異なる場合があります。分配金は税金（一律20.315%）控除後、再投資するように設定しています。

# ファンドのMIRAI

## NISA・手数料の効果【2012年9月-2017年8月】

ここでは、一般でファンドを購入したときとNISAを通じてファンドを購入したときの差異を、手数料（購入時手数料・信託財産留保額）の水準と（収益分配金に対する）税金の水準を明らかにしています。なお、iDeCoを含む確定拠出年金の場合の試算もNISAの場合と全く同じになります。



項目	eMAXIS	セゾン・バンガード	DC年金バランス	グローバル財産3分	野村6資産	SBI資産設計	トレアロ	しんきん3資産
基準価額(a)	18,925	13,885	15,001	8,168	10,043	14,344	12,186	8,100
<b>保有口数</b>								
手数料なし(e)	378,677	514,629	476,445	827,929	674,042	502,094	533,256	866,753
NISA適用(f)	378,677	514,629	476,445	810,045	663,122	502,094	521,739	848,032
一般購入(b)	378,677	514,629	476,445	810,045	656,745	501,197	521,739	825,317
信託財産留保	0.15%	0.10%	0.00%	0.25%	0.30%	0.15%	0.00%	0.30%
<b>解約価額</b>								
手数料なし(g)	71.7万円	71.5万円	71.5万円	67.6万円	67.7万円	72.0万円	65.0万円	70.2万円
NISA適用(h)	71.6万円	71.4万円	71.5万円	66.0万円	66.4万円	71.9万円	63.6万円	68.5万円
一般購入(i)	71.6万円	71.4万円	71.5万円	66.0万円	65.8万円	71.8万円	63.6万円	66.7万円
手数料差異(g-h)	0.1万円	0.1万円	0.0万円	1.6万円	1.3万円	0.1万円	1.4万円	1.7万円
NISA差異(h-i)	0.0万円	0.0万円	0.0万円	0.0万円	0.6万円	0.1万円	0.0万円	1.8万円

グローバル財産3分法ファンド（毎月決算型）、野村世界6資産分散投信(分配コース)、トレンド・アロケーション・オープン、しんきん3資産ファンド（毎月決算型）の4つのファンドは、ノーロードファンド（購入時手数料がゼロのファンド）ではありませんので、手数料差異が大きくなっています。さらに、しんきん3資産ファンド（毎月決算型）は毎月の収益分配金が（ほかのファンドに比べて）相対的に大きいのでNISA差異が大きくなっています。その他のファンドは、ノーロードファンドかつ収益分配金がほぼゼロになっており、効率的な運用ができることがわかります。

## ■ 今月のピックアップファンド（トレンド・アロケーション・オープン）

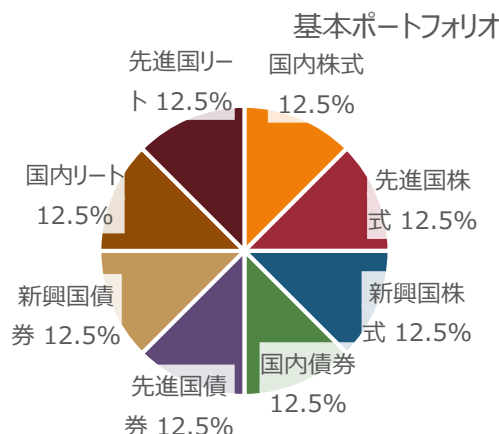
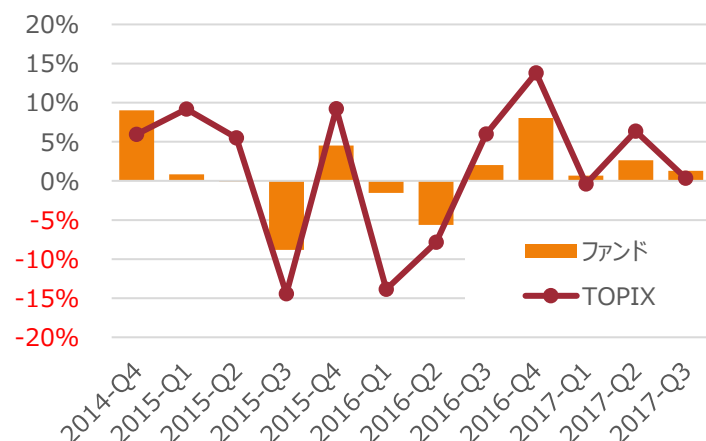
### ファンドの特徴

このファンドは、バランス型ファンドの中ではリスクの低いファンドになる。リスクの測度で確認できるが、8ファンド中、月刊の最高騰落率と最低騰落率の差異は最も小さくなっている。つまり、リターン（騰落率）のブレ幅が小さい（＝リスクが低い）ということになるのである。

運用の特徴は、ダイナミック・マルチアセット・プラス戦略という投資戦略を採っていることにある。なんだか難しい名前になっているが、機械的なトレンドフォロー（順張り）戦略と考えればよい。市況がよいときには株式（積極的投資）を中心に、市況が悪化すれば債券（防御的投資）にシフトするというのがダイナミック・マルチアセット・プラス戦略の簡単な説明である。この戦略の欠点は、市場が急激に変動したときに対応できないことにある。市場が底を打って大きく回復した、予想していなかった出来事により市場が急落したといった場合には、どうしても対応が遅れてしまうのである。設定来、分配金を支払った実績はない。「リスクをできるだけ抑えて、長期的に資産を緩やかに増やしていきたい」という投資家のニーズには合致するファンドである。解約を考えなければNISAやiDeCoで投資しなくても十分である。複数の販売機関が存在するので、できるだけ購入時手数料の安い金融機関で購入すればよい。

項目	コメント
ポートフォリオ	先進国と新興国の株式や債券、さらに、リートやコモディティ（商品）などで構成されたポートフォリオである
運用体制	アリアンツ・グローバル・インベスターズに運用を委託している
アクティブ/パッシブ	アロケーションはタクティカル（戦術的）に変動させているが、各資産クラスの運用はパッシブ
販売会社の特徴	横浜銀行、秋田銀行、イオン銀行、SBI証券など多くの金融機関が取り扱っている。販売会社の説明能力にはバラツキがあると考えられる
資産残高の推移	2014年から2016年にかけて純資産残高を大幅に伸ばしている。販売会社の増加に伴い純資産残高が伸びたものと推定される。2016年以降は、資金流失にはなっていないがそれほど資金が流入しているわけではない
購入時手数料	購入時手数料は、ゼロから2.16%とバラツキが大きい
信託報酬	信託報酬は、1.1704%と少し高い
収益分配金	収益分配金は設定来支払われたことがない。収益分配金を支払わず、投資元本の成長を目指す運用方針であると考えられる
運用成果	シャープレシオで運用の成果を比較すると、8ファンド中、最下位である。ただし、これは市況に大きく影響され、市況がよいときこのファンドの相対的な運用成果は下がるが、市況が悪いときは、相対的な運用成果が上がる。直近1年は市況がよかったので最下位になっていると予想される
積立投資	積立投資の場合、リターンが低いのに、申込時手数料が高いため、積立投資の効率性は、8ファンド中最下位になっている。
解約	解約の場合に差し引かれる手数料（信託財産留保額）はない。
NISA&積立投資	収益分配金がないため、解約をしない限りNISAによるメリットはない。それより、申込手数料が低い販売会社を選ぶことのほうがメリットは大きい。

## ■ eMAXIS バランス (8資産均等型) 【eMAXIS】



### ファンドのしくみ・手数料・税金など

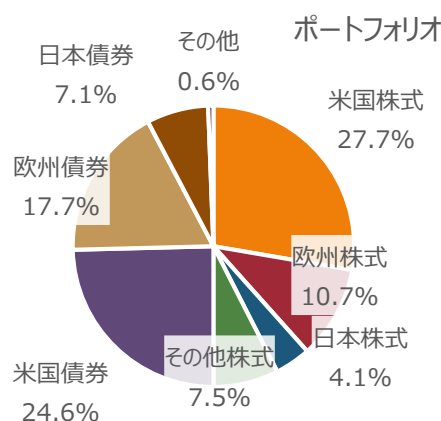
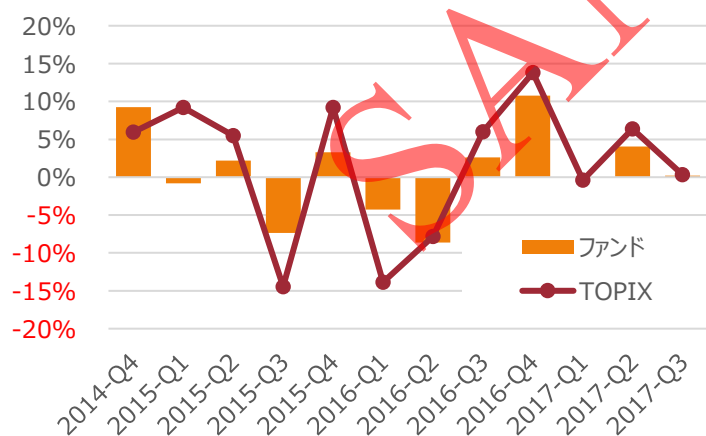
運用会社	三菱UFJ国際投信		
信託銀行	三菱UFJ信託銀行		
販売会社	SBI証券、静岡銀行、三菱東京UFJ銀行ほか		
購入時手数料	なし		
信託財産留保額	0.15%	純資産総額	231億円
信託報酬	0.54%		

### ファンドの運用

期待リターン	11.7%	5位/8ファンド
予想リスク	10.0%	5位/8ファンド
日本株式(TOPIX)との連動性	86%	
直近4半期のリターンと相対順位		

四半期	ファンド (%)	四分位	TOPIX(参考) (%)
2016-Q4	8.0%	3	13.8%
2017-Q1	0.7%	1	-0.4%
2017-Q2	2.7%	3	6.4%
2017-Q3	1.3%	1	0.3%

## ■ セゾン・バンガード・グローバルバランスファンド【セゾン・バンガード】



### ファンドのしくみ・手数料・税金など

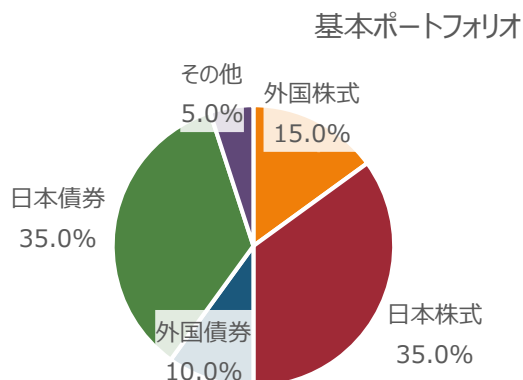
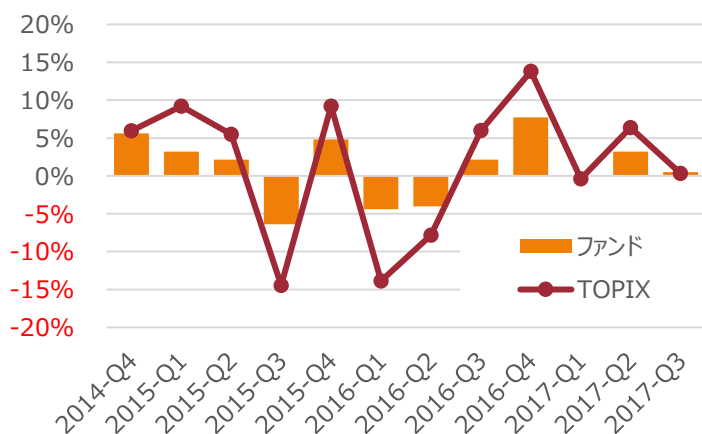
運用会社	セゾン投信		
信託銀行	野村信託銀行		
販売会社	セゾン投信		
購入時手数料	なし		
信託財産留保額	0.10%	純資産総額	1,432億円
信託報酬	0.68%		

### ファンドの運用

期待リターン	11.7%	4位/8ファンド
予想リスク	10.8%	7位/8ファンド
日本株式(TOPIX)との連動性	81%	
直近4半期のリターンと相対順位		

四半期	ファンド (%)	四分位	TOPIX(参考) (%)
2016-Q4	10.8%	1	13.8%
2017-Q1	-0.1%	2	-0.4%
2017-Q2	4.0%	1	6.4%
2017-Q3	0.2%	4	0.3%

## ■ 三井住友・DC年金バランス50（標準型）【DC年金バランス】



### ファンドのしくみ・手数料・税金など

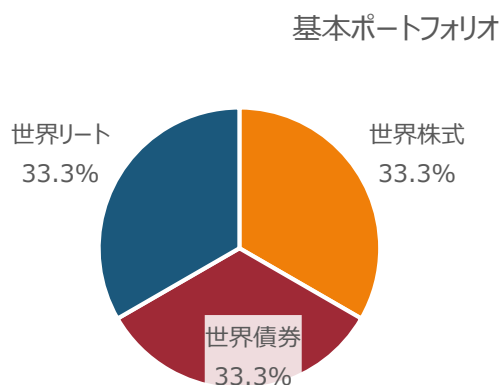
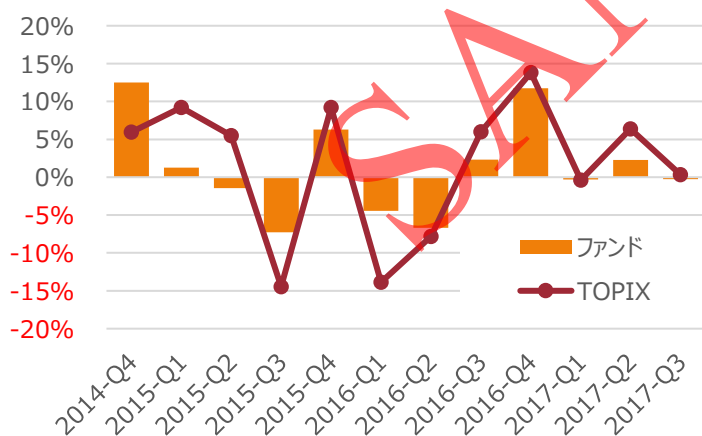
運用会社	三井住友アセットマネジメント		
信託銀行	三井住友信託銀行		
販売会社	SBI証券、楽天証券、マネックス証券ほか		
購入時手数料	なし		
信託財産留保額	なし	純資産総額	208億円
信託報酬	0.2484%		

### ファンドの運用

期待リターン	10.7%	6位/8ファンド	
予想リスク	8.1%	3位/8ファンド	
日本株式(TOPIX)との連動性	97%		
直近4半期のリターンと相対順位			
四半期	ファンド	四分位	TOPIX(参考)
2016-Q4	7.7%	3	13.8%
2017-Q1	0.1%	2	-0.4%
2017-Q2	3.2%	<b>1</b>	6.4%
2017-Q3	0.5%	3	0.3%

税金	対象		税率	NISA,iDeCo
	対象	税率		
税金	収益(普通)分配金	20.315%	なし	なし
	換金・償還益	20.315%	なし	なし

## ■ グローバル財産3分法ファンド（毎月決算型）【グローバル財産3分】



### ファンドのしくみ・手数料・税金など

運用会社	三菱UFJ国際投信		
信託銀行	三菱UFJ信託銀行		
販売会社	SBI証券、十六銀行、リテラ・クリア証券ほか		
購入時手数料	3.24%	(上限)	
信託財産留保額	0.25%	純資産総額	208億円
信託報酬	1.5444%		

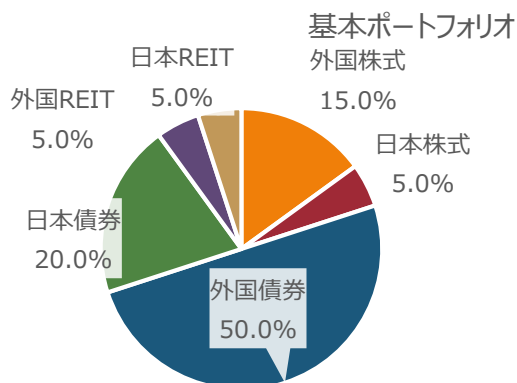
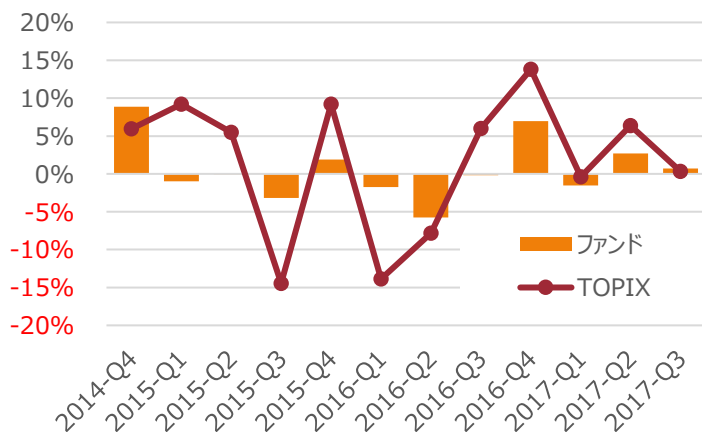
### ファンドの運用

期待リターン	12.9%	2位/8ファンド	
予想リスク	12.0%	8位/8ファンド	
日本株式(TOPIX)との連動性	81%		
直近4半期のリターンと相対順位			
四半期	ファンド	四分位	TOPIX(参考)
2016-Q4	11.8%	<b>1</b>	13.8%
2017-Q1	-0.3%	3	-0.4%
2017-Q2	2.3%	3	6.4%
2017-Q3	-0.2%	<b>4</b>	0.3%

税金	対象		税率	NISA,iDeCo
	対象	税率		
税金	収益(普通)分配金	20.315%	なし	なし
	換金・償還益	20.315%	なし	なし



## ■ 野村世界6資産分散投信(分配コース)【野村6資産】



### ファンドのしくみ・手数料・税金など

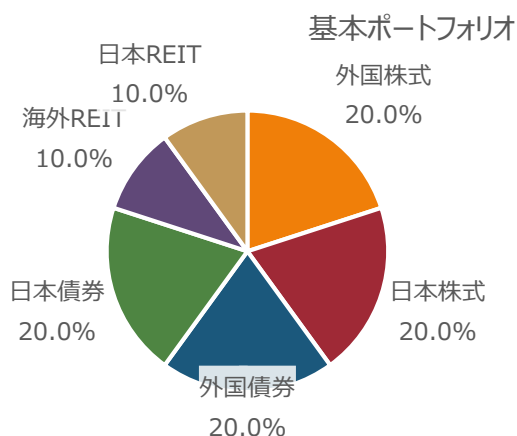
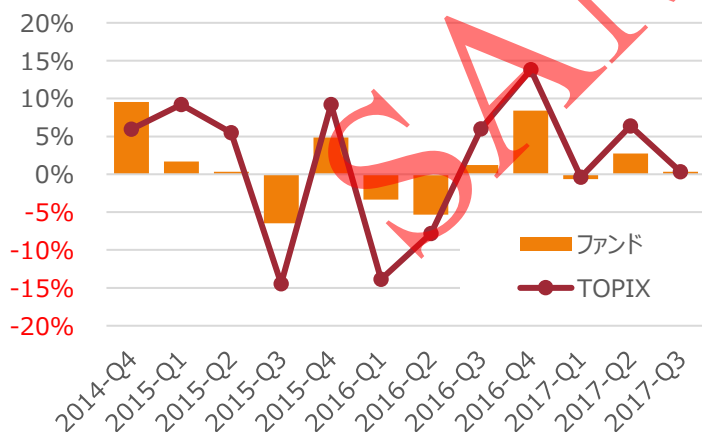
運用会社	野村アセットマネジメント		
信託銀行	野村信託銀行		
販売会社	ゆうちょ銀行		
購入時手数料	1.62%		
信託財産留保額	0.30%	純資産総額	1,218億円
信託報酬	0.7452%		

### ファンドの運用

期待リターン	9.4%	7位/8ファンド
予想リスク	9.5%	4位/8ファンド
日本株式(TOPIX)との連動性		80%
直近4半期のリターンと相対順位		

四半期	ファンド (%)	四分位	TOPIX(参考) (%)
2016-Q4	7.0%	4	13.8%
2017-Q1	-1.5%	4	-0.4%
2017-Q2	2.7%	2	6.4%
2017-Q3	0.7%	2	0.3%

## ■ SBI資産設計オープン (資産成長型)【SBI資産設計】



### ファンドのしくみ・手数料・税金など

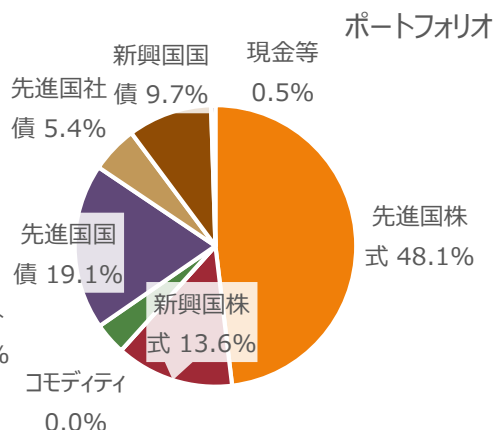
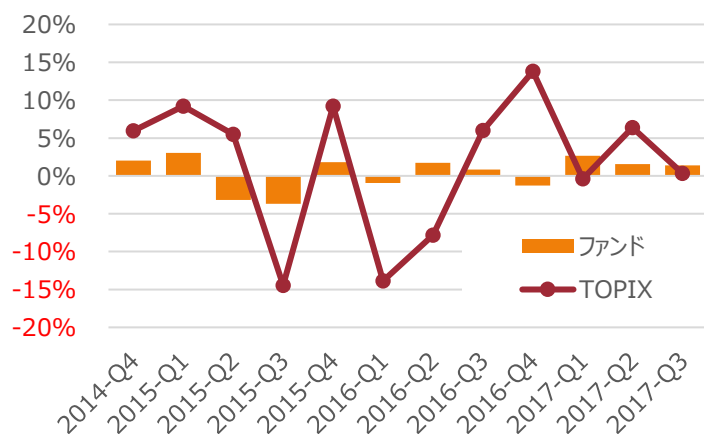
運用会社	三井住友トラスト・アセットマネジメント		
信託銀行	三井住友信託銀行		
販売会社	SBI証券		
購入時手数料	なし		
信託財産留保額	0.15%	純資産総額	262億円
信託報酬	0.7344%		

### ファンドの運用

期待リターン	12.1%	3位/8ファンド
予想リスク	9.5%	4位/8ファンド
日本株式(TOPIX)との連動性		90%
直近4半期のリターンと相対順位		

四半期	ファンド (%)	四分位	TOPIX(参考) (%)
2016-Q4	8.4%	2	13.8%
2017-Q1	-0.6%	3	-0.4%
2017-Q2	2.7%	2	6.4%
2017-Q3	0.3%	3	0.3%

## ■ トレンド・アロケーション・オープン【トレアロ】



### ファンドのしくみ・手数料・税金など

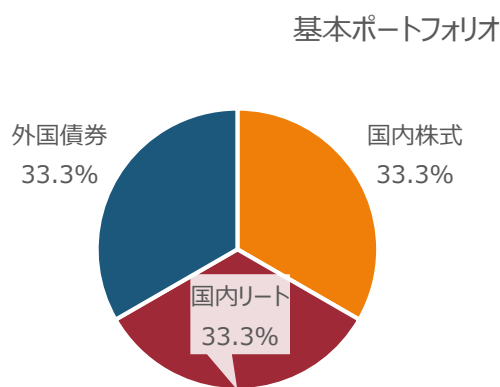
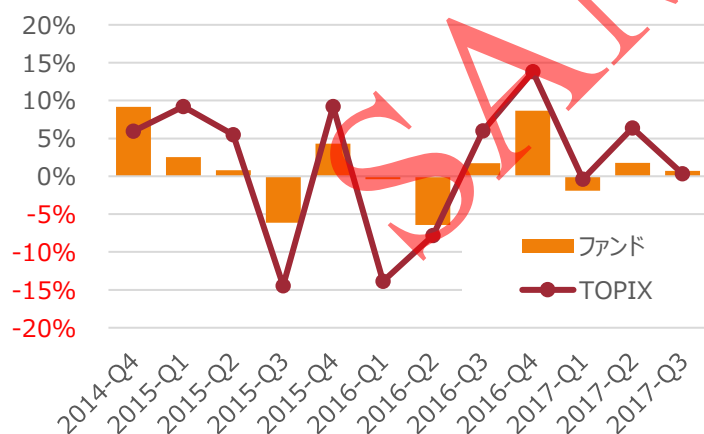
運用会社	三菱UFJ国際投信		
信託銀行	三菱UFJ信託銀行		
販売会社	SBI証券、紀陽銀行、三菱東京UFJ銀行ほか		
購入時手数料	2.16%	(上限)	
信託財産留保額	なし	純資産総額	1,190億円
信託報酬	1.1704%		

### ファンドの運用

期待リターン	4.3%	8位/8ファンド
予想リスク	5.3%	1位/8ファンド
日本株式(TOPIX)との連動性	48%	
直近4半期のリターンと相対順位		

四半期	ファンド	四分位	TOPIX(参考)
2016-Q4	-1.3%	4	13.8%
2017-Q1	2.7%	1	-0.4%
2017-Q2	1.5%	4	6.4%
2017-Q3	1.4%	1	0.3%

## ■ しんきん3資産ファンド（毎月決算型）【しんきん3資産】



### ファンドのしくみ・手数料・税金など

運用会社	しんきんアセットマネジメント		
信託銀行	しんきん信託銀行		
販売会社	京都中央信用金庫、多摩信用金庫ほか		
購入時手数料	2.16%	(上限)	
信託財産留保額	0.30%	純資産総額	486億円
信託報酬	1.0260%		

### ファンドの運用

期待リターン	13.2%	1位/8ファンド
予想リスク	10.2%	6位/8ファンド
日本株式(TOPIX)との連動性	81%	
直近4半期のリターンと相対順位		

四半期	ファンド	四分位	TOPIX(参考)
2016-Q4	8.6%	2	13.8%
2017-Q1	-1.9%	4	-0.4%
2017-Q2	1.8%	4	6.4%
2017-Q3	0.7%	2	0.3%

## 2017年8月の世界の市況

日付	曜日	市況
2017/8/1	火	中国の6月の工業指数が堅調で、WTIは50ドルを超え銅も2年来の高値を付け、鉄鉱石も上昇と資源価格が軒並み上昇する中、米国市場では株式、債券ともに下落。欧州市場では米国の食品医薬品局がタバコのニコチンを抑えることをメーカーに要求したばこ関連株が大幅に下落
2017/8/2	水	米国では、7月の自動車販売が6%程度下落し、ISM指数は予想を下回る結果になったが、ダウが史上最高値を更新。国債もドルも値上がり。欧州では、ロールスロイスが予想上回る決算となり11.6%値を上げたほか、Intertek Group, Direct Line, DSMなど個別企業の決算が好影響し市場は上昇。
2017/8/3	木	米国ではほとんどの株式が軟化したが大きく上昇しそのおかげでダウは史上最高値を更新。ユーロは依然としてドルに対して強い。欧州市場ではテクノロジー株がアップルにけん引されて上昇したが、資源関連株が軟化し、ソシエテ・ジェネラル、コムルツバンクが芳しくない決算を公表し銀行株も下落。市場全体も値を下げた
2017/8/4	金	米国では、特別検察官がロシア疑惑で大量の人を審査リストに載せていると報じられ、株式市場に負の影響を及ぼしたがダウはわずかに上昇し史上最高値を更新。明日の労働統計の公表を前に米ドルは対円で軟化。欧州ではエネルギー株が値を下げたが個別企業の決算が好調で市場全体は上昇。ただし、ドイツはシーメンスの決算が芳しくなく取り残される
2017/8/7	月	米国の7月の労働統計が予想以上に良かったことからドル高、債券安。Fedは9月から資産圧縮に入るとの観測。ゴールドマンサックスを筆頭に金融株が堅調。公益、ヘルスケア、消費財の各セクターは軟調。ユーロ安になったことから欧州市場では輸出関連を中心に全面高の展開
2017/8/8	火	米国では米ドルが先週末の上昇となり国債のイールド、金、原油価格が下落。原油は主要産出国が供給過剰問題を検討中。米国ではエネルギーが軟化したテクノロジー、消費財が堅調でダウ、SP500ともに史上最高値。欧州ではドイツの工業統計が予想以上に悪くDAXは軟化したが大、鉄鋼、鉄鉱石の価格上昇からアルセロールミタル、アングロアメリカン、リオティント、グレンコアなどが上昇しFTSEは上昇
2017/8/9	水	米国市場では市場を動かす大きな要因はなかったがトランプ大統領が北朝鮮に警告メッセージを発し、市場はボラティリティが上昇。株価下落。欧州では旅行・レジャー関係は安かったが、公益株、エネルギー、自動車関連などが値を上げ市場全体としても上昇
2017/8/10	木	米国ではティラーソン国務長官が北朝鮮に対する軍事行動を直ちにとるわけではないと軌道修正。VIX指数は下落したが、株価指数はほぼ横ばい。欧州では、北朝鮮がグアムを攻撃する意図を表明したことから全面安となり、CAC40は1.4%、DAXは1.1%それぞれ下落した。値を上げたのは金の生産企業のみであった
2017/8/11	金	トランプと金の言い合いが市場に悪影響を及ぼし、金、日本円、米国債といった安全資産が値上がりし、VIX指数は44%の上昇。米国市場ではMacy's やKohl'sといった小売りの販売が伸び悩み株価低迷。欧州市場では保険会社のエイゴンやCoca Cola HBCなどが値を上げたが循環銘柄が値を下げ市場全体も軟化した
2017/8/14	月	米国では、ボラティリティが低下し、CPIが予想以上に上昇しなかったことからFedの利上げ観測が遠のいたとして株価は上昇した。ただし、銀行株は軟化。欧州では、ボラティリティが上昇し、アルセロールミタル、リオティント、BHPピリトンといった資源関連株が値を下げ、銀行株も値を下げ、市場全体も軟化した
2017/8/15	火	ホワイトハウスが北朝鮮との戦争が直ちに起こるわけではないと火消しのコメントを出し、市場ではボラティリティが低下して、株高、金、国債、日本円安。欧州でも基調は同じで銀行株を中心に市場が戻る。ドイチェバンクやコムルツバンクは3%以上の上昇。フィアット・クライスラー、ダノンはM&A関連のうわさで上昇

## 2017年8月の世界の市況

日付	曜日	市況
2017/8/16	水	米国では北朝鮮との緊張が幾分緩和されたことから、安全資産である円や金の価格が低下。7月の小売り統計が予想以上に良かったことから米ドルが上昇。株式市場ではダウは幾分値を上げたが、SP500とNASDAQはわずかに値下がり。欧州市場ではドイツの第2四半期のGDPが国内需要にけん引されて0.6%上昇。株式市場では金融、ヘルスケア関連が貢献して市場は上昇
2017/8/17	木	米国ではFedが議事録を公開した。低いインフレ予想に懸念が示され、FedのBSの規模縮小のタイミングも明記されない結果となった。米ドルが下落し、株式市場は値を上げた。欧州では四半期のGDP成長が0.6%と堅調で、資源関連株を中心に市場は上昇。アングロアメリカンやグレンコアは3~4%の上昇となった
2017/8/18	金	トランプ政権の減税を含む政策の実行力に疑問が投げかけられ、SP500は3か月来の大幅な値下がり。個別銘柄では決算内容がよくなかったシスコは4%値を下げ、ウォルマートも減益となり1.6%値を下げた。欧州市場では昨日のFedの議事録の内容が銀行株を軟化させ、ソシエ・ジェネラル、クレディアグリコル、BNPパリバといったフランスの主要行は大きく値を下げた
2017/8/21	月	市場のトランプ政権に対する不信感は根強く市場は低迷。個別銘柄ではナイキや農業機器メーカーのDeere'sが業績不振で株価低迷。欧州市場ではハルセロナのテロの影響で、ライオンエア、プリティッシュエアウェイズの親会社のIAGなどトラベル関連が値を下げた
2017/8/22	火	米国では薄商いとなりSP500はかろうじて前日を上回った。市場ではカンザスシティFedが開催する中央銀行会議でのイエレン議長とドラギ理事の発言に注目が集まる。米ドルは安く日本円が上昇。リスクオフ資産への移行は、欧州の銀行株にとってマイナス。欧州市場ではフィアット・クライスラー、デンマークのMaerskなどが値を上げたが、銀行株が軟化して値下がり。
2017/8/23	水	米国ではトランプ政権が減税などの課題に取り組むとの期待感から主要な株式指数は軒並み大幅に上昇。米ドルも上昇し、米国の在庫が減少すると予想される原油も価格上昇。欧州では資源価格が堅調で資源関連株を中心に上昇
2017/8/24	木	米国ではトランプ政権が連邦政府を閉鎖するとの脅しをかけたことで、フィッチは米国の格付け見直しに言及。株式市場は軟化し、リスク避難先の国債、日本円、金の価格が上昇。欧州では、広告世界最大手のWPPが売り上げ見通しの下方修正から大幅に下落。Publicisなどの競合他社も値を下げ市場全体も軟化
2017/8/25	金	米国ではハリケーンがテキサスを直撃し原油価格が下落。また、国債の発行枠をめぐる政治的な論争が株式と国債の値を下げる。イールドは上昇したため米ドルは上昇。市場では金曜日のジャクソンホールでのイエレンFRB議長とドラギECB総裁のスピーチに注目が集まる。欧州市場では、景気循環株を中心に市場は上昇
2017/8/28	月	ジャクソンホールでのイエレン議長のスピーチはタカ派的なものではなく市場は好感。米株と国債は上昇。ハリケーンが近づいているため原油価格は上昇。ドラギ総裁のスピーチでは為替に言及することもなく、ユーロ高は是正されず。欧州市場では、AmazonによるWhole Foods Market買収の影響で欧州の小売株が軟化。金融やエネルギーは上昇したが市場全体では下落
2017/8/29	火	米国ではハリケーンがテキサスを直撃しエネルギーと銀行株が下落。製油所が閉鎖されることから原油価格は下落したが、ガソリン価格は上昇。ホームデポは株価上昇し、トラベラーズ、オールステートなどの損保関連が安い
2017/8/30	水	米国ではハリケーンの影響で6日連続でガソリン価格が上昇。北朝鮮によるミサイル発射は当初、ドル安を引き起こしたが、その後、ドルはリバウンド。債券のイールドは2015年1月来の低い水準になり金価格も上昇。欧州でもミサイルの影響があり、特に輸出に依存しているドイツのDAX指数は大きく値下がり
2017/8/31	木	米国ではGDP成長率が上方修正され、8月の民間部門の雇用情勢（ADPレポート）も3月以来の新規就労者数の伸びとなり、米国株式は大きく上昇。欧州市場も、昨日値を下げた銀行株や資源関連株がリバウンド。フランスの医療機器Biomeueuxやドイツの放送機関RTLなど個別企業の収益が好調だったことも市場の上昇に寄与